



小島友実の あの馬の STORY

ピンクレガシー



8月23日・小倉・3歳未勝利戦 ゴールの瞬間

長年、競馬を続ける中で、わがおひのじいじいは驚かせた。しかしながら20日に小倉競馬場で未勝利戦を勝ち上がったピンクレガシーのレースぶりはむづむづしました。前走が不良馬場でタイムオーバーとなつての16着だったことが影響したのか、勝った小倉戦では15番人気。しかし後方からレースを進め、ピンクレガシイは4コーナー手前から手応え良く馬群の中を縫って上がり、直線では力強く抜け出しました。あれは運命ですか！時期的に未勝利戦はあと一回出走できなかつたところの状況下でしたから、とても大きな勝利でした。管理する藤岡健一調教師は、「力があの時は初戦の内容からわかつてしまつたが正直、差し切れぬとは思っていましたが、今回の勝利は様々な幸運が重なつましたね。」と決めてくれて本当に良かったです。」「安心された様子でした。

ピンクレガシーは全姉に桜花賞馬のジユラード、半姉にフリーリーズブリーダーなど5勝を挙げた父カラチャイガの良血馬。藤岡調教師も期待していましたが、募集時から注目を集めています。ただ、2歳の10月にケージ試験に受けたものの、実際にデビュー戦を迎えたのは3歳の3月でした。藤岡師匠は「振り返ります。」「2歳の頃は体質が強くなつたとあります。じつは成長を待つまつた」

「デビュー前の調教であつて動くタイプではなかつたので、じつはやれるかと思つて送つたのですが、想定以上でし

たね。良い脚を使って直線を感じられる良い走り。力があつた感じでした。」これなり初勝利のタイミングはいつ遠くない時期に訪れるだけと思われましたが、その後の数戦は歯車が噛み合つてしまつた。ピンクレガシーは似つかわしい部分があることを伺つてみました。

「デビューランの勝つたときに力があり、馬體では私の強い感じを認めたけど、6月20日の阪神戦は直線で伸びかねたのに前が塞がつて着ました。そして7月11日の阪神戦は不良馬場で全く力を出せませんでした。」

何でこんな負けたレースはそれぞれ敗因があり、力負けではなくつたことがわかります。そして前述した通り、「デビューラン」で戦目となるたゞ8月の小倉戦で初勝利をマーク。この勝利を改めて藤岡調教師に振り返り頂きました。

「8月初旬に帰厩して中の間から飼葉を食べて貰われるようになつて、直前の動きも良くて状態も上向いていたから、何とか頑張つてくれなづかと思つてしまつた。でも前走で馬場が悪化したのは大敗していたし、レース前から雨が降つて、これは難しいかなと感じていました。レースは後方からの追走になつて外を回つたが、届かない感じで鞍上の藤岡太騎手が3つ4つコーナーで少し内を通つて上がりで行き、直線で外に出せた事が大きなポイントでしたね。残り50mくらいは凄い脚を使つてくれて、驚かせましたね。」

「距離せり800～1000mのところでは、今後、上のつりびとやつて貰うことは少しあるかもしれません。ただ、この血統は馬体が段々大きくなつて傾向なので、そんなに心配はしていません。状態やオーナーとの相談で、また、この血統は馬体が段々大きくなつて傾向なので、そんなに心配はしていません。」

ピンクレガシーは段々、馬体が良くなつた。だから、馬体が良くなつてしまつた。でも前走で馬場が悪化したのは大敗していたし、レース前から雨が降つて、これは難しいかなと感じていました。レースは後方からの追走になつて外を回つたが、届かない感じで鞍上の藤岡太騎手が3つ4つコーナーで少し内を通つて上がりで行き、直線で外に出せた事が大きなポイントでしたね。残り50mくらいは凄い脚を使つてくれて、驚かせましたね。」

「デビューランの阪神芝1000mで、デビューレンジングレガシー。結果は後

藤岡厩舎ではこれまでバルト・ウイナの子供を育成カワシムサ・サンシャイン、トライアード、シーキュラーノなど多数預かれており、その多くが大活躍しています。

8月23日（日）・電話取材

profile 競馬キャスター＆ライター。現在、ラジオNIKKEI「中央競馬実況中継」に出演中。「週刊競馬ブック」や「JRA-VANスマートアプリ」にて連載を持つ。ライフワークは馬場取材で、2015年「馬場のすべて教えます（王婦の友社刊）」を出版。JRAの競馬場の他、最近は地方競馬場の馬場取材も行っている。